

新しい発想で未来をつなぐ

「市政運営」から「市政経営」へ

少子高齢化や物価高騰、公共施設の老朽化など行政を取り巻く環境は年々変化しています。限られた財源や人員の中で適切な行政サービスを提供する必要があり、これまでと同じやり方では解決できない課題も増えています。

こうした状況を受け、市は「市政運営」から「市政経営」への転換を掲げ、財源の調達やあらゆる資源の活用などの視点を加え、税収の確保などとともに、新たな財源確保に向けた取り組みを進めています。

図発想フルリン課直95-4447

「発想フルリン課」設置から1年

市政の意識を「運営」から「経営」に転換するには、職員の「発想」を大山こまのようにくると転換することが必要です。そのけん引役として令和7年4月に発想フルリン課を新設し、1年が経過しました。

発想フルリン課では、部署の垣根を越えて意見交換を行うほか、市民や事業者の皆さんの力を借りながら、これまで当たり前だと思われていた考え方を見つめ直し、新しい可能性を模索しています。



財源確保に向けた取り組み

職員一人一人が市政経営の感覚を持ち、市が「稼ぐ力」をつける必要があります。そのためには、地域の魅力や資源を生かし、新たな価値を生み出すことが大切です。

ふるさと納税

市は、新たな組み合わせを加えた返礼品や、伊勢原市ならではの体験を楽しめる体験型の返礼品など、寄付者に選ばれるように工夫して提供しています。現在では、以前よりも多くの事業者にご協力いただき、返礼品の種類も前年から200件増えて約500件になりました。他にも、返礼品の写真や紹介文を見直したり、掲載後の反応を見ながら修正を加えたりしています。こうした取り組みにより、ふるさと納税の受入額は、令和6年度の約3800万円から、令和7年度は約8900万円(見込み)となり、前年から約5100万円増加しました。寄付金は、市が取り組むさまざまな事業に活用され、子育て支援や教育環境の充実、福祉の向上、地域活性化な

ど市民生活に直結する施策を支える貴重な財源として役立てています。

ふるさと納税は、寄付を集めるだけの制度ではなく、市の魅力を全国に届ける制度でもあります。返礼品をきっかけに、市外に住む人たちが伊勢原市を知り、興味を持ち、応援したいとの思いにつながることもあります。近年では、ふるさと納税をきっかけに市へ訪れたり、市内事業者の返礼品を継続して申し込みをしたりする人も増えています。これからもこうした縁が市内観光や地域産業の活性化につながるよう取り組みを続けていきます。

返礼品を通して伊勢原の良さを伝えたい

市がふるさと納税の返礼品を開始した平成28年度から、返礼品事業者として参加しています。何をすれば良いかわからないことが多い中、市の担当職員と二人三脚で取り組めることが大きな支えになっています。はじめは豚肉のみだった返礼品も、試行錯誤しながら取扱品目を増やし、今ではお米と枝豆を加えるなど、常に時代に沿った品揃えを心がけています。

また、伊勢原市を知ってもらえればとの思いから、商品ひとつひとつに「いせはら」の文字が入ったシールを貼り付けています。この取り組みにより、多くの人へ魅力を発信できればうれしいです。



有限会社やさいハウス
電井 隆さん

ふるさと納税返礼品 寄付額ベスト5

- | | | |
|-----|-----------------------------------|--|
| 第1位 | 柏木牧場特製 国産牛100%ハンバーグ
(株式会社柏木牧場) | |
| 第2位 | 電動トックトック
(株式会社パブル) | |
| 第3位 | さかもとのたまご
(有限会社坂本養鶏) | |
| 第4位 | 加藤さんちのうんめえ米 はるみ
(加藤花園) | |
| 第5位 | 亀井さんちのうんめえ米 はるみ
(有限会社やさいハウス) | |

企業版ふるさと納税

企業が自治体を応援するために寄付ができる制度です。企業にとっては社会貢献や地域貢献につながり、市にとっては地域課題の解決や新たな事業展開の後押しとなります。令和7年度は17件1140万円の寄付をいただき、令和6年度の10件560万円から大幅に

増加しました。地域を応援したいという思いが寄付につながります。市の強みや将来像を明らかにし、応援したいと思われるまちづくりを進めます。

ガバメントクラウドファンディング

「この事業を実現したい」という思いを広く発信し、賛同した人から寄付を募る仕組みが、ガバメントクラウドファンディング(GCF)です。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏を市内の小学校5年生が鑑賞するため、初めてGCFを行いました。「未来を担う子どもたちの豊かな感性を育む」という趣旨にご賛同いただき、目標金額100万円のところ、約123万円が集まり、支援人数も100人以上に上りました。その目的や趣旨をしっかりと伝えることが市内外の皆さんの「共感」を生み、多くの人が応援者となったことが目標額達成につながりました。今後も皆さんの共感を生み、応援していただける取り組みを進めていきます。

皆さまの温かいご寄付や応援のおかげで目標金額を達成することができ、深く感謝申し上げます。プロのオーケストラの演奏は、子どもたちにとって音楽への関心を高めることができ、かけがえのない体験となりました。応援していただいた皆さまのお気持ちがとても嬉しく、また心強く感じました。

教育委員会は、今回を契機に、学校で元気に学ぶ子どもたちや、それを支える先生の頑張る姿を、大いに発信していきます。引き続き、ご理解とご協力をお願いします。



宮村教育長

メルカリShopsの活用

市では、備品の更新や施設の整理などで不要な物品が発生することがあります。そこで、まだ活用できる価値があるのではないかとこの視点から、フリーマーケットアプリ「メルカリ」のメルカリShopsを活用した物品の再活用を始めました。売上が市の収益となるだけでなく、市の資源循環に関する取り組みを広く知っていただくことができます。

出品作業は、使用していた備品を管理していた各部署が自ら行うため、市職員が市有財産を活用して歳入につなげる視点を実感でき、資源の活用に対する意識向上にもつながります。

すでに椅子やテーブルなどいくつかの商品が売れており、少し

ずつ成果が出ています。現在は、粗大ごみなどとして出されたものの販売に向けた調整を進めています。これからも出品物のさらなる拡充と、資源の再活用に向けた取り組みを進めていきます。

商品は随時出品中です。アカウントをフォローすると出品時に通知が届きます。



メルカリShops



メルカリShops開設の様子

noteで返礼品提供事業者の思いを発信

ふるさと納税の返礼品は、市の魅力を全国に伝える重要な役割も担っています。返礼品を提供する事業者の思いや取り組みを広く知っていただくため、情報発信プラットフォーム「note」を活用した情報発信を開始しました。商品づくりへの思いや、どのよ

うな課題を乗り越えてきたのかなど、市民も知らなかった地域の魅力に気づくことができるほか、市外の人からの寄付の促進にもつながり、事業者の励みとなります。



note

返礼品事業者を募集しています

ふるさと納税は、市の魅力を発信するとともに、地元特産品のPRや販路拡大が期待できます。市では、商品やサービスを提供いただける法人、団体または個人事業者を募集しています。応募要件など詳しくは、市HPをご確認いただくか、担当へご連絡ください。



市HP

第2弾ガバメントクラウドファンディングを行っています

市内の小学4年生を対象に、理科の楽しさに触れる機会をつくるため寄付を募集します。「ヒトの体のつくり」を学ぶ工作実験や、「月と星の動き」を体験するプラネタリウム学習など、子どもたちが自ら手を動かし、五感を通して学ぶプログラムです。

用途 子ども科学館を活用した指定移動教室の実施にかかる経費
目標金額 100万円
寄付方法 ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」から
募集期限 10月26日(月)



ふるさとチョイス